

市の放射線問題への取り組み…1～3面
正しい知識で効果ある節電を……4面
AEDを新たに5か所に設置……6面
15万人のひろば……8～9面
おしらせ・8月の相談日……12～13面
8月の休日当番医……16面

市独自基準を設定し

大気中の放射線問題に対応

ごみの焼却灰や堆肥センターの堆肥の放射線測定なども

市では、水道水の放射能が規制値を超えた場合の対応や大気中の放射線量に関する市独自の基準と対応を定めたほか、全ての小中学校や公園などでの測定を行うなど、いち早く放射線問題に対応してきました。さらに、焼却灰や堆肥の測定も実施するなど市民の皆さんが安心して生活ができるよう積極的に放射線問題に取り組んでいきます。

東日本大震災に伴う東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故による放射線問題で、市では、市民の皆さんの不安を解消するため、大気やごみの焼却灰、堆肥センターの堆肥、水道水などの放射線測定を行い、学校や保育所などではいち早く市独自の基準も設定して対応しています。今号では、市のこれまでの放射線問題への取り組みと今後の方針をお知らせします。

大気中の放射線測定

大気中の放射線の測定は、当

初、県内では公的な測定地点が市原の1か所であったことから、東葛地域では東京大学柏の葉キャンパスや国立がん研究センター東病院などによる独自の測定値が注目され、しかも県の測定値に比べ10倍程度高かったことで住民などによる測定が相次いで実施され、不安が拡大しました。文部科学省が測定方法や機器の精度などの規定を定めていなかったという問題はあるものの、東葛地域の数値の高さがうかがわれたため、5月17日に、東葛6市で統一した規格のもとで信

頼のおける測定器による調査実施を県に要請しました。

要請を受けて県は、東葛6市の各市3地点ずつ、計18か所で空間放射線量の測定を行い、野田市では、5月31日に市域の北部の二川小学校、中央部の野田幼稚園、南部の福田保育所で実施されました。

測定結果を見ると、文部科学省が示した校舎、校庭などを利用する判断基準となる放射線量の暫定値である年間1から20ミリシーベルトの最大値20ミリシーベルトを時間換算した1時間当たりの放射線量3・8マイクロシーベルトを全ての地点で下回る状況でした。しかし、この数値が高すぎるなどの批判があったことから、同省は福島県内の関係機関に、今年度の学校において児童生徒な



毎月2回市内9か所での定点測定を

どの受ける線量の目標値を年間1ミリシーベルトとすることを通知しました。この年間1ミリシーベルトを基準とした場合、20ミリシーベルトを時間当たり3・8マイクロシーベルトに換算する式に当てはめると、1時間当たりの放射線量は0・19マイクロシーベルトとなり、東葛6市の全18か所中15か所、うち野田市では1か所で超過という結果となりました。

◆市独自基準の設定へ

結果を受け、市では、皆さんの不安を取り除くため、6月6日に文部科学省に質問書を提出し、年間1ミリシーベルトという基準に対する1時間当たりの放射線量は0・19マイクロシー

（2面につづく）

※今号の市報は、東北地方太平洋沖地震の影響で紙の入手が困難なため、これまでと異なる紙を使用しています